



十條サーマル社の「シールドプラス®」量産設備が完成 ～グローバル市場への供給体制整う～

日本製紙株式会社(社長:野沢 徹、以下「当社」)は、紙にバリア性を付与した「シールドプラス®」について、当社グループの十條サーマル社(Jujo Thermal Oy、社長:澤村 寿弘、本社:フィンランド・エウラ市)での量産化に向けた設備工事を計画通り完了し、供給体制を整えました。今後、サンプル提供を開始、欧州市場を中心に、グローバル市場への展開を進めます。

十條サーマル社は、既存の感熱事業で培った塗工技術を生かし「シールドプラス®」の開発・マーケティングに取り組んできました。このたびの設備工事では、「シールドプラス®」製造に関わる薬品の調製設備の増設などを行いました。これらの設備は、ISO22000などの認証取得を視野に入れ、食品パッケージ用途に適した厳格な衛生基準に適合するものとなっています。これにより、供給能力を強化するとともに、今後も引き続き幅広いパッケージ材料の開発を進めていきます。

当社は、「紙でできることは、紙で。」を合言葉に、社会の課題解決につながる「紙化ソリューション」を推進しています。「シールドプラス®」シリーズは、紙にバリア機能を持たせることで、従来のプラスチックやアルミといったバリア性素材の領域に、「紙」という選択肢を提案するものです。十條サーマル社は、当社グループの欧州生産拠点として、「シールドプラス®」の浸透を図ってまいります。

設備投資の概要

(1) 生產品種	シールドプラス®
(2) 設備投資額	500万€(615百万円) *1€=123.04円 9/29時点の為替
(3) 稼働開始	2020年9月



本件に関するお問い合わせ
日本製紙株式会社
海外事業部長 長浦 善文
(TEL 03-6665-1250)

以上